

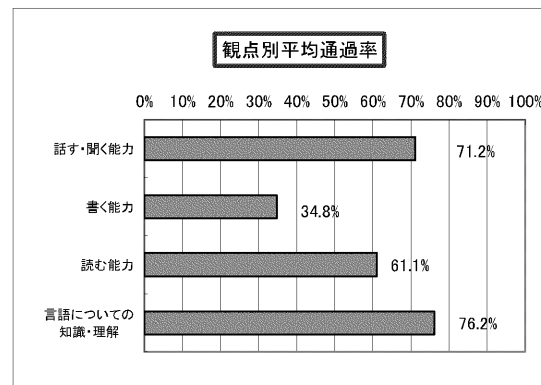
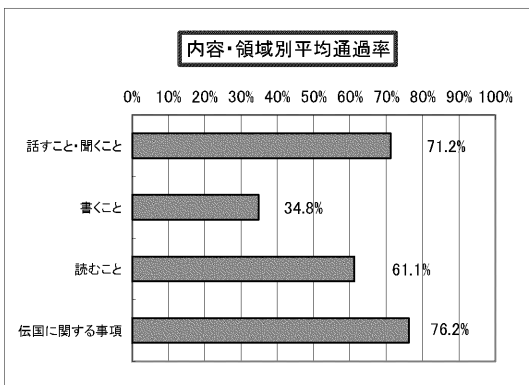
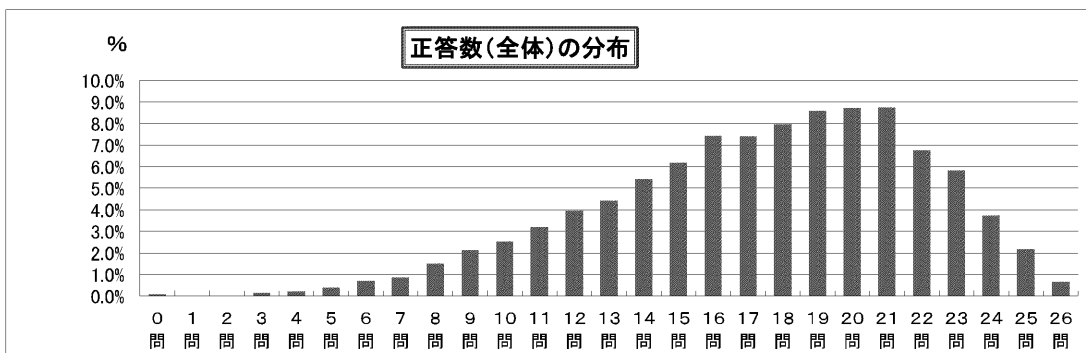
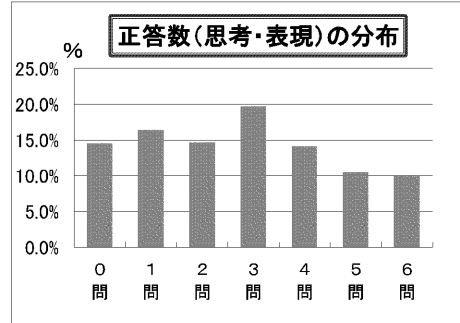
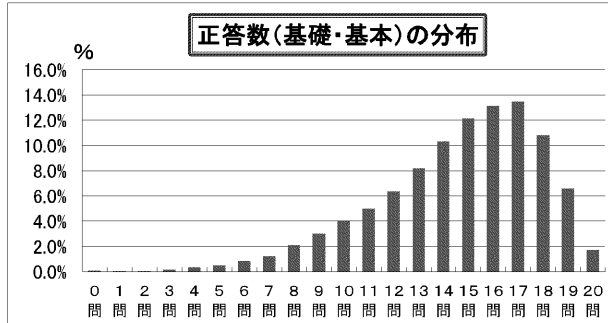
### 3 各教科の平均通過率と受検者の正答数分布（県全体）

#### (1) 【小学校】

#### 小学校第5学年【国語】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	73.1%	68.0%	68.5%
思考・表現	45.8%	57.6%	53.2%
全体	66.8%	65.1%	63.9%



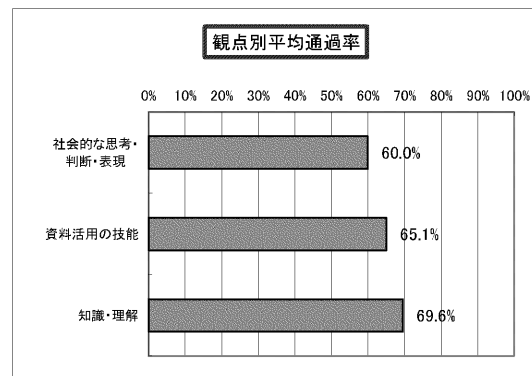
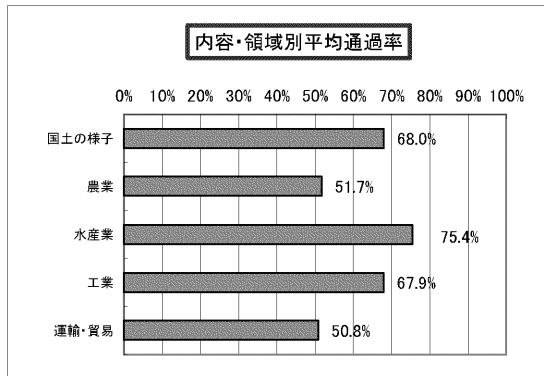
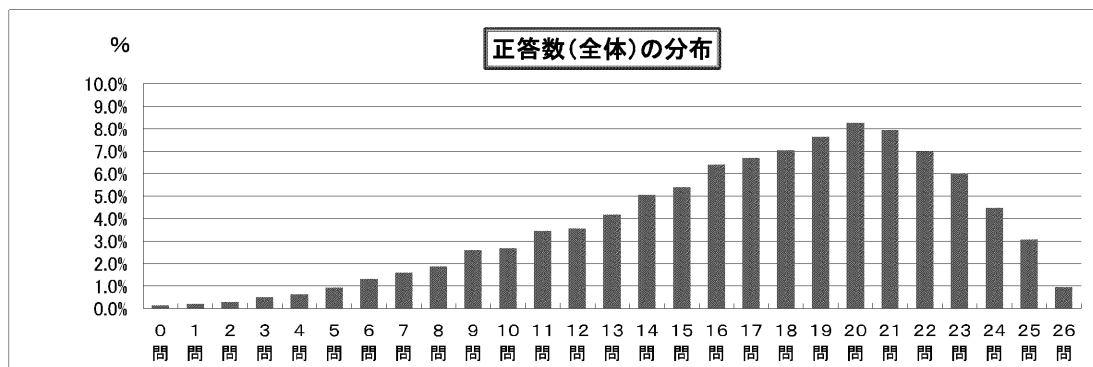
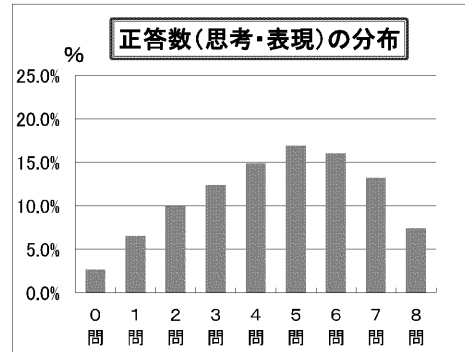
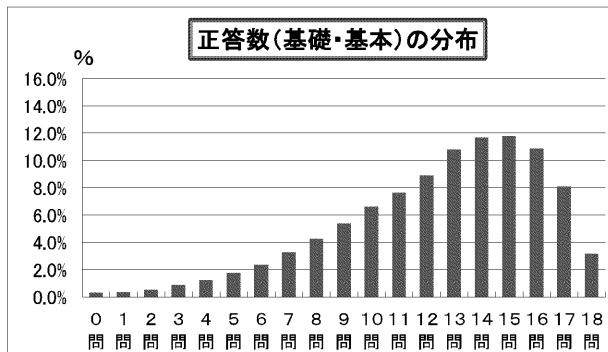
#### 小学校第5学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は73.1%である。昨年度の課題であったローマ字については、読み、書きともに昨年度結果を15ポイント程度上回っており、改善の傾向が見られた。これまで課題のあった手紙の形式の特徴については、依然として課題が継続している。
- 「思考・表現」については、平均通過率は45.8%である。正答数(思考・表現)の分布グラフから正答数2問以下の児童が4割を超えていることが分かる。特に、大問4、情景描写の表現を捉え、自分の考えをまとめる問題では、10%強の児童が無解答であった。また、大問5では、情報の読み取りと処理、表現に関する問題を出題したが、25%前後の児童が無解答であった。
- 一文の中から主語や述語を見付けることは、話の中心を理解する上で、大変重要な力であり、低学年から継続して指導されている。しかしながら、単文の中から主語を見付け出す問題について改善の傾向は見られるが、依然として7割を超えない状態である。文章の中から大事な部分を見付ける力の育成に向け、指導方法や定着の確認について見直しを図りたい。

小学校第5学年【社会】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	69.4%	59.2%	61.4%
思考・表現	57.0%	39.3%	46.9%
全体	65.6%	53.3%	57.1%



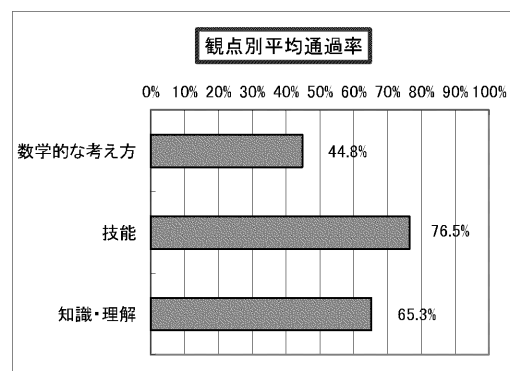
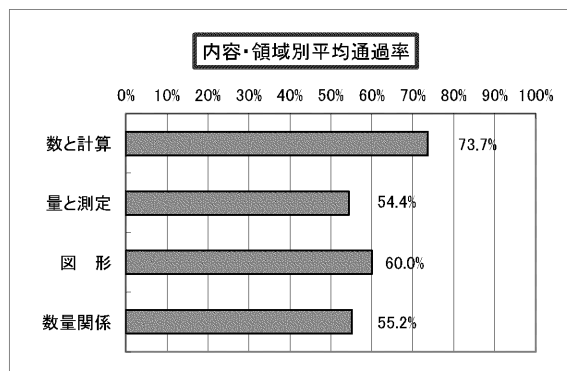
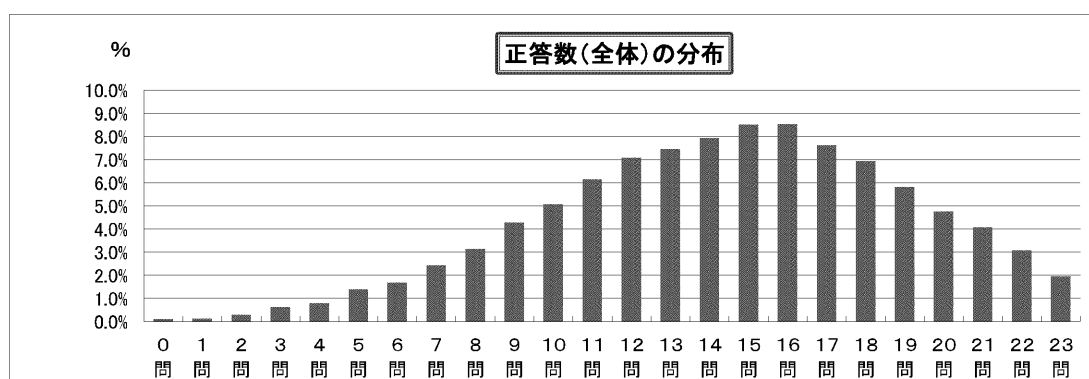
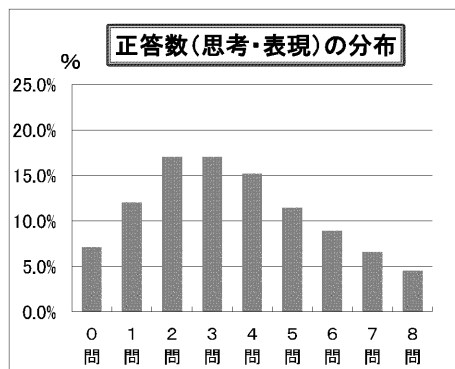
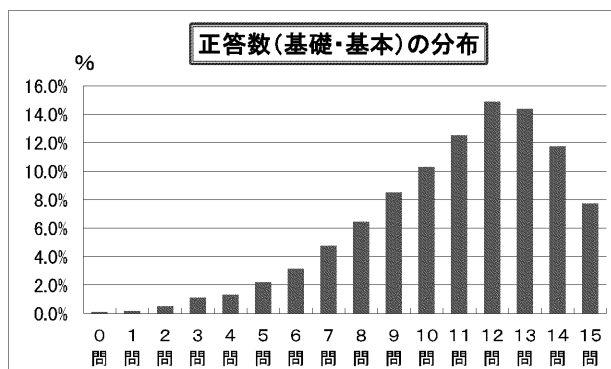
小学校第5学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は69.4%である。特に、我が国の領土に関する問題、米作りが盛んな地域の特色や米作りの手順等に関する問題で課題が見られる。
- 「思考・表現」については、平均通過率は57.0%であるが、無解答率が10%を超える問題もあり、課題が残る。特に、指示された語句を使い、資料から分かることを説明する問題等に課題が残る。
- 資料（地図、写真、グラフ、表等）にどのような内容が書かれているのか、自分の考えをまとめたり、グループで話し合ったりする活動を充実させ、また、複数の資料の関連を多角的・多面的に捉えられるように、比較・関連付け等を意識した授業改善に取り組んでもらいたい。

## 小学校第5学年【算数】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	72.6%	67.7%	66.8%
思考・表現	43.9%	50.6%	44.3%
全体	62.7%	62.8%	59.0%



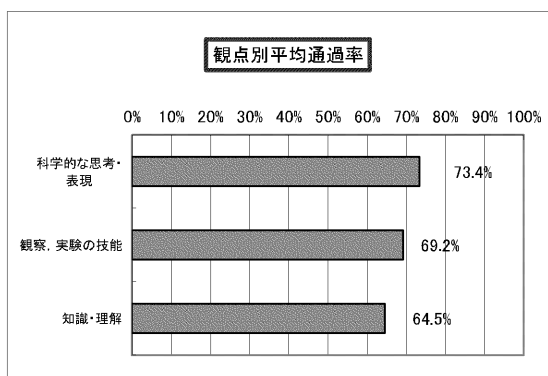
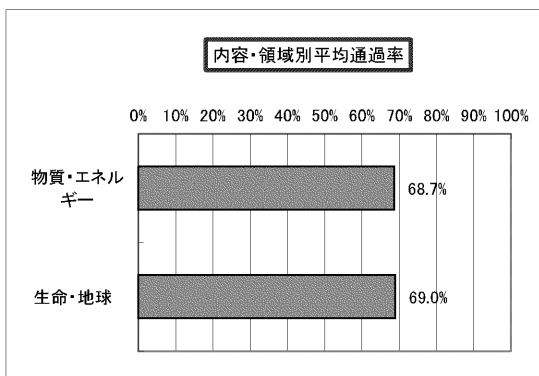
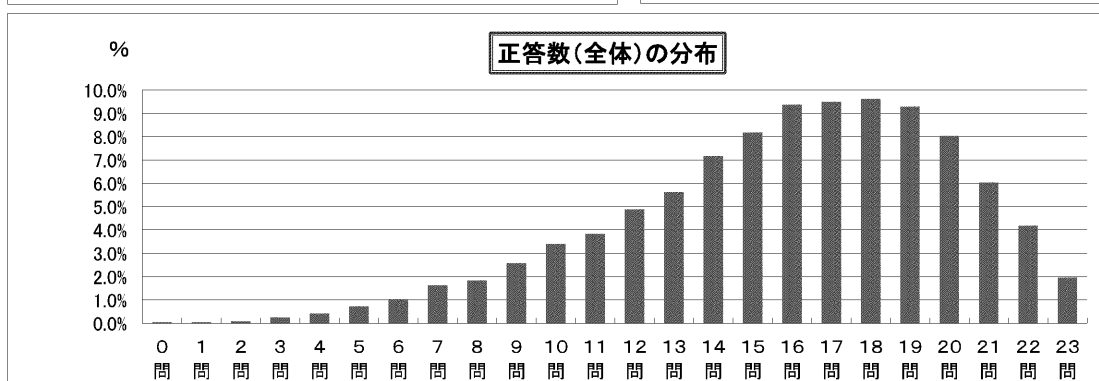
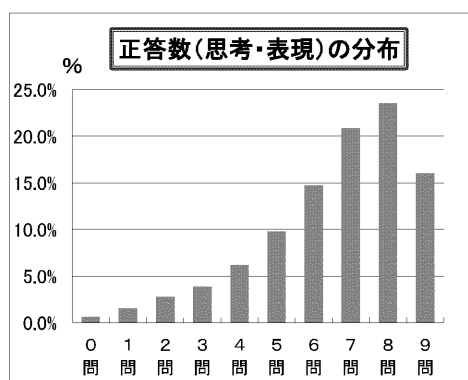
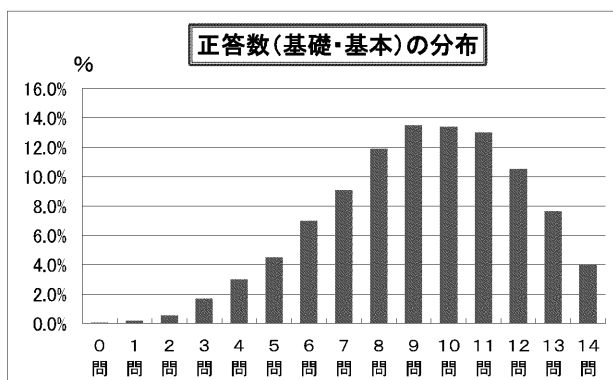
### 小学校第5学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は72.6%である。平均通過率が6割に届かない問題もあり、課題が見られる。特に、四角形の面積を既習の図形に分けたり、全体から引いたりして求める問題、倍の関係にある2つの数量を表す線分図を選択する問題に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率は43.9%である。グラフの読み取りや複数のグラフを関連付けて説明を記述する問題に課題がある。無解答率も10.7%と高い。グラフの数値を読み取り、比較したり、自分の考えを数学的な表現を用いて、ノートに記述したり、伝え合ったりする活動を取り入れる必要がある。
- 問題場面から数量を読み取り、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて整理し、筋道立てて考えたことを表現したり、説明したりする学習活動を工夫・充実させていく必要がある。

小学校第5学年【理科】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	65.9%	59.7%	56.3%
思考・表現	73.4%	46.9%	28.5%
全体	68.8%	55.1%	46.3%



小学校第5学年

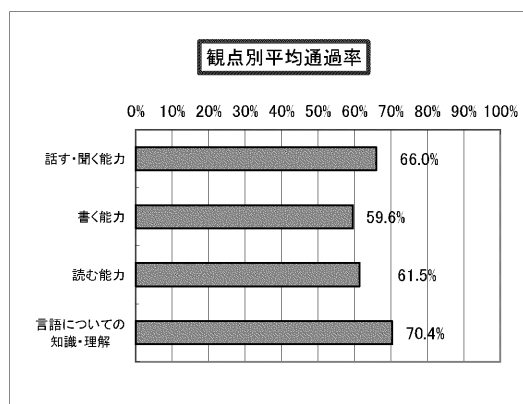
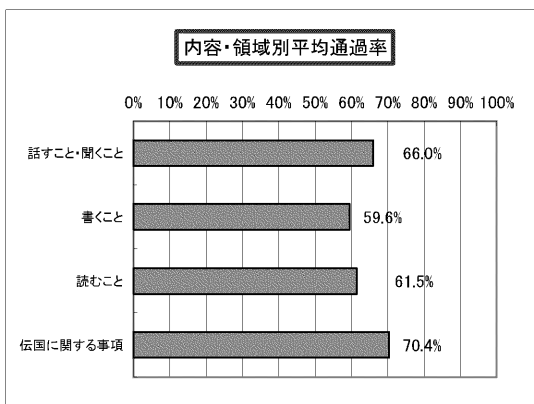
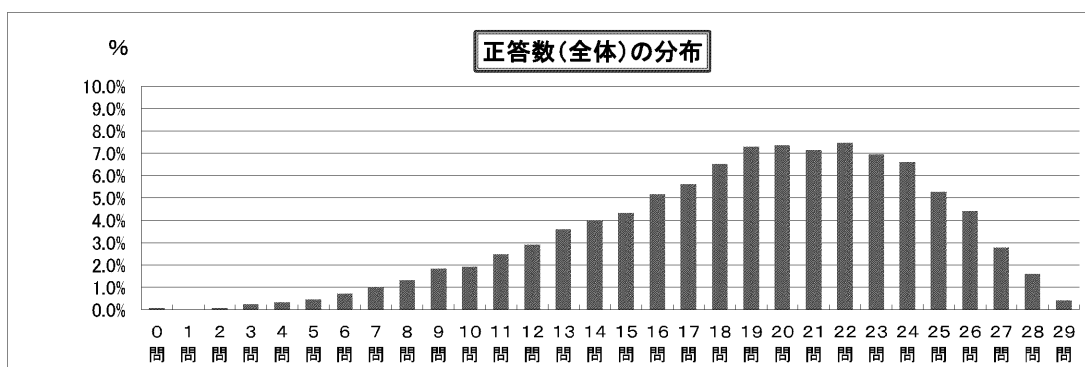
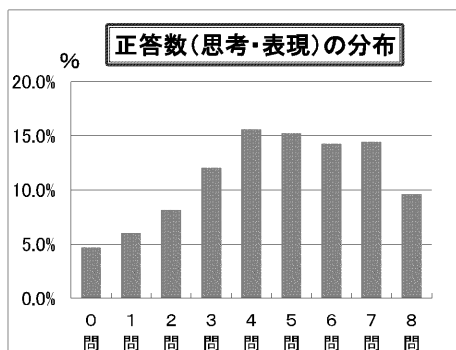
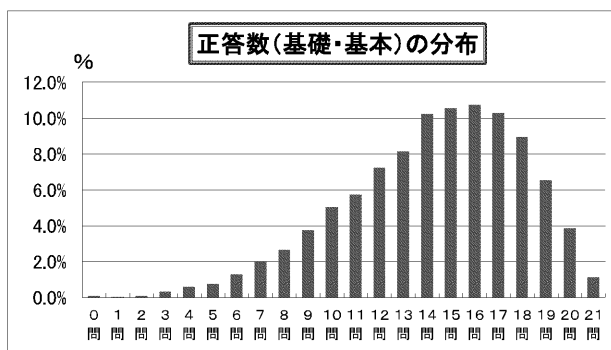
- 「基礎・基本」については、平均通過率は65.9%である。追跡調査である水の三態変化や温められた水の動きについて前回は上回っているが、乾電池の並列つなぎによる電流の大きさについては平均通過率が39.6%であり、平成29年度公立高校入学者選抜学力検査問題に出題された星座早見の使い方については、平均通過率が42.6%と課題がある。また、新規で出題した問題（7問出題）について、平均通過率が低く定着が図られていない。
- 「思考・表現」については、平均通過率は73.4%である。平成23年度と同一問題である、ペットボトルに入っている水の体積の変化についての問題は、平成23年度に比べ35.1ポイント上回るなど改善が見られる。しかし、「水の温度と食塩、ミョウバンが溶ける量の関係」を使って実験を企画する問題では、平均通過率が48.4%と課題が見られる。
- 天体について、児童が苦手にするため、星座や星の動きを観察し記録することを、長期休業中等に取り組みさせるようにする。また、4年で学習した星座早見や星の動き等を復習してから、6年「太陽と月の形」の単元を指導するようにしたい。

(2) 【中学校】

中学校第1学年【国語】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	73.1%	68.0%	68.5%
思考・表現	45.8%	57.6%	53.2%
全体	66.8%	65.1%	63.9%



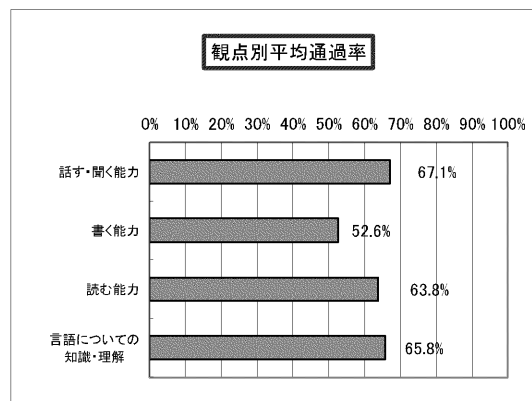
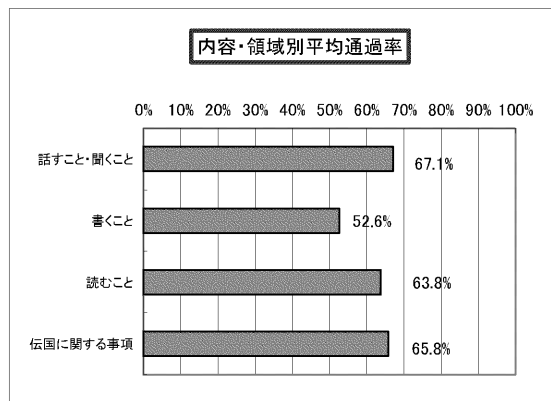
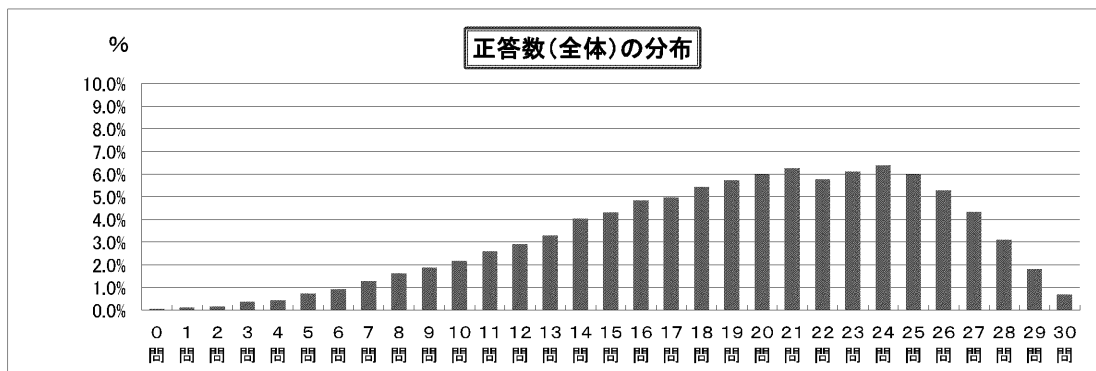
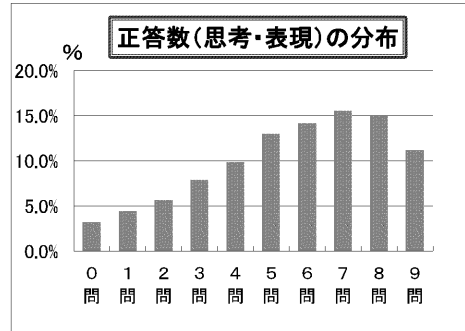
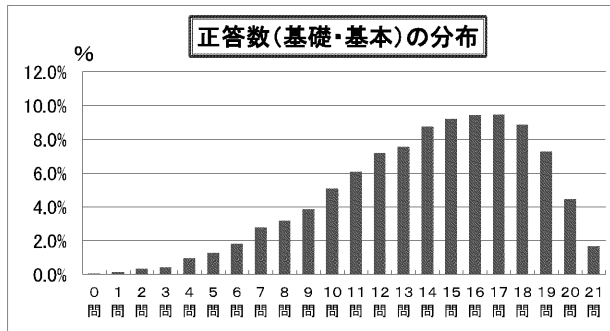
中学校第1学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は68.0%である。これまでの諸学力調査結果から話すこと・聞くことに関して課題が残っていたが、その傾向が続いている。また、小学校第6学年で学習した漢字の書きが定着していない傾向がある。小中間の連携を図りたい。
- 「思考・表現」については、平均通過率は57.6%であるが、ほとんどの問題において無解答率が10%を超えた。各学校においては、誤答傾向と同時に何が分からなくて書けなかったのか原因を探り、それらを生かした言語活動を授業に組み込んでいく必要がある。
- 言葉の使い方を正確に理解する力と言葉で表現された内容や事柄を正確に理解する力は、伝え合う力を育成する上でも重要な力であり、小学校から継続して指導されている。しかしながら、平易な文章を読んで、その内容を正確に理解できていない実態がある。文章全体を概観する力と同時に文章の一部を読んで、その内容をしっかり理解する力の育成を図りたい。

中学校第2学年【国語】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	73.1%	68.0%	<b>68.5%</b>
思考・表現	45.8%	57.6%	<b>53.2%</b>
全体	66.8%	65.1%	<b>63.9%</b>



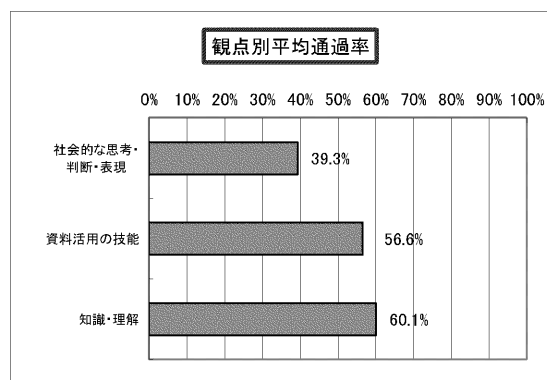
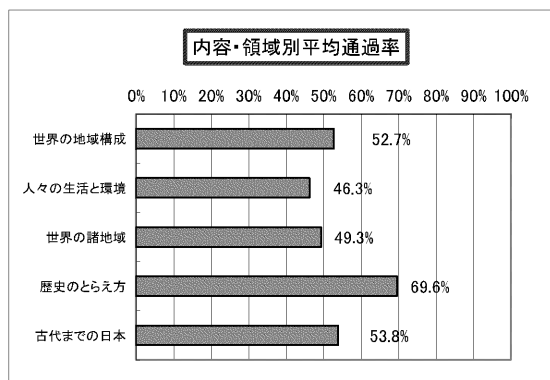
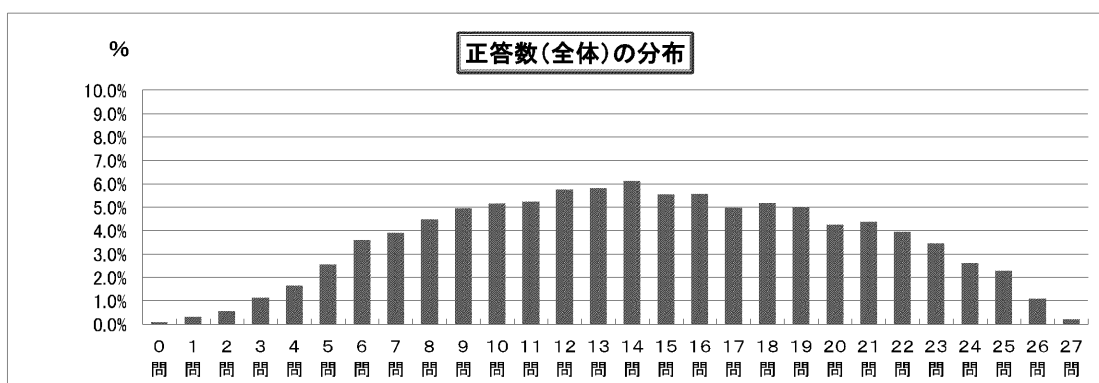
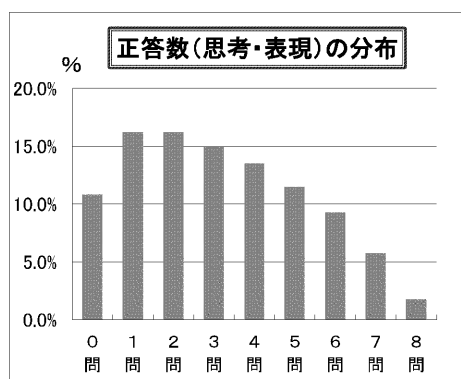
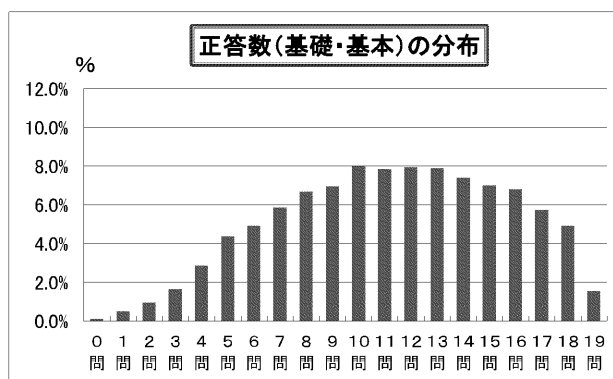
中学校第2学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は68.5%である。小学校で学習した漢字や敬語の種類、行書の特徴、歴史的仮名遣い、古語の意味などの通過率がそれぞれ50%前後となっており、基礎的・基本的な知識の定着に課題が残った。
- 「思考・表現」については、平均通過率は53.2%であるが、その多くが無解答率20%を超えていた。大問4では、二つの作品を読み比べ、作品の特徴を読み取り、内容を比較したり、関連付けたりすることについて出題したが、25%程度の無解答率であった。
- 出題した問題の中には授業場面での相手意識や目的意識を問う問題も出題されている。学習の中で、相手意識や目的意識を明確にした言語活動を位置付け、その中で基礎的・基本的な事項の定着や課題解決のための方法、学習を振り返り評価する力の育成を計画的、意図的に取り組んでもらいたい。

## 中学校第1学年【社会】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	69.4%	<b>59.2%</b>	61.4%
思考・表現	57.0%	<b>39.3%</b>	46.9%
全体	65.6%	<b>53.3%</b>	57.1%



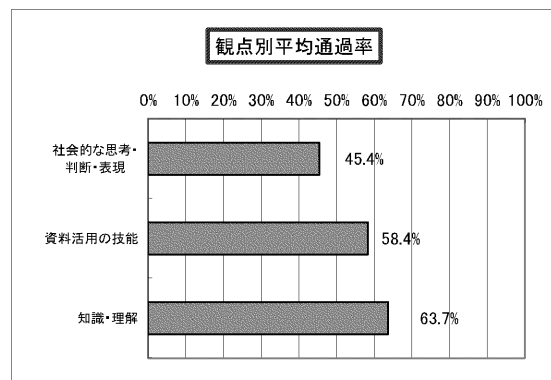
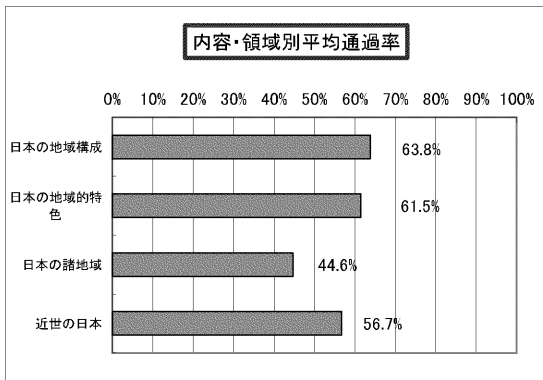
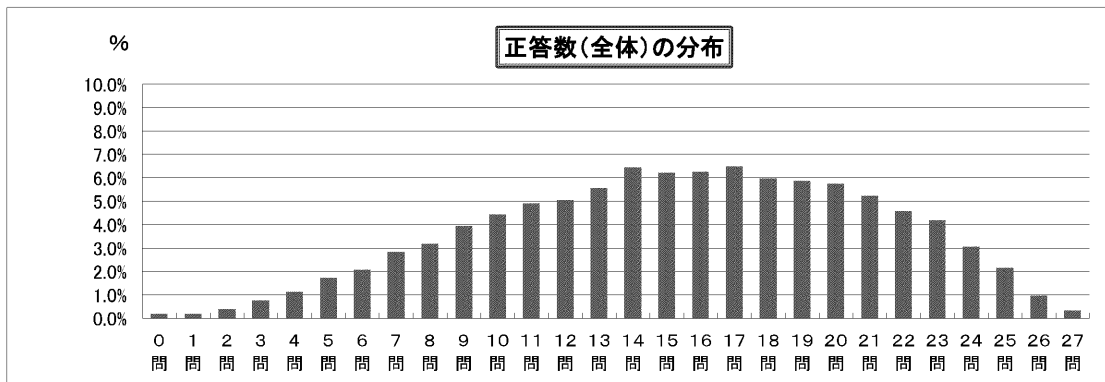
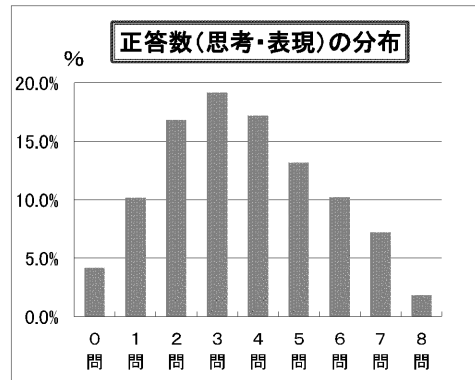
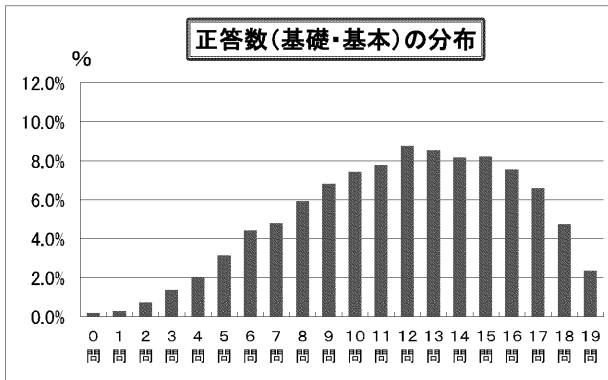
### 中学校第1学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は59.2%である。気候帯や世界各地の人々の生活の様子を答える問題、アジアやヨーロッパの産業の特色等に関する問題に課題が見られる。
- 「思考・表現」については、平均通過率は39.3%である。昨年度同様、雨温図と関連付けて気候の特色を説明する問題は、H28の平均通過率29.6%に対し、9.5%と低くなっている。また、正答数(思考・表現)の分布グラフから、正答数2問以下の生徒が4割を超えていることが分かる。今後、選択・判断した根拠や理由を明確にし、まとめる活動を取り入れたり、評価問題等を単元末テストや定期テスト等で活用したりするなどの取組を充実させることが必要である。
- 資料(写真、グラフ、表等)から読み取れる内容と地図が関連付けられるように、着目する視点を明確にし、課題を追究したり解決したりする活動を効果的に取り入れてもらいたい。

中学校第2学年【社会】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	69.4%	59.2%	61.4%
思考・表現	57.0%	39.3%	46.9%
全体	65.6%	53.3%	57.1%



中学校第2学年

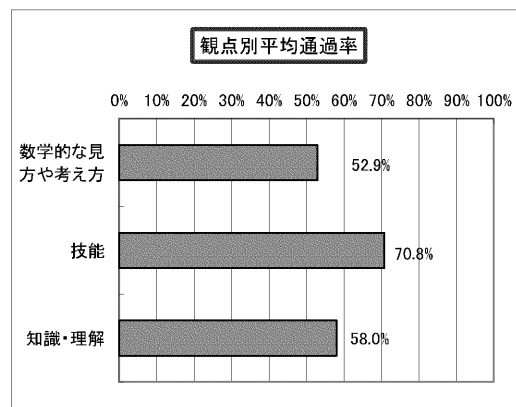
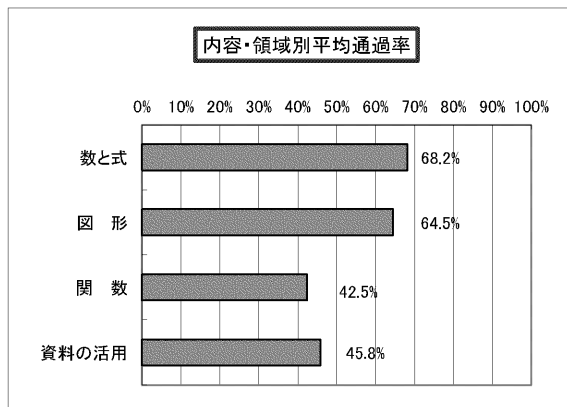
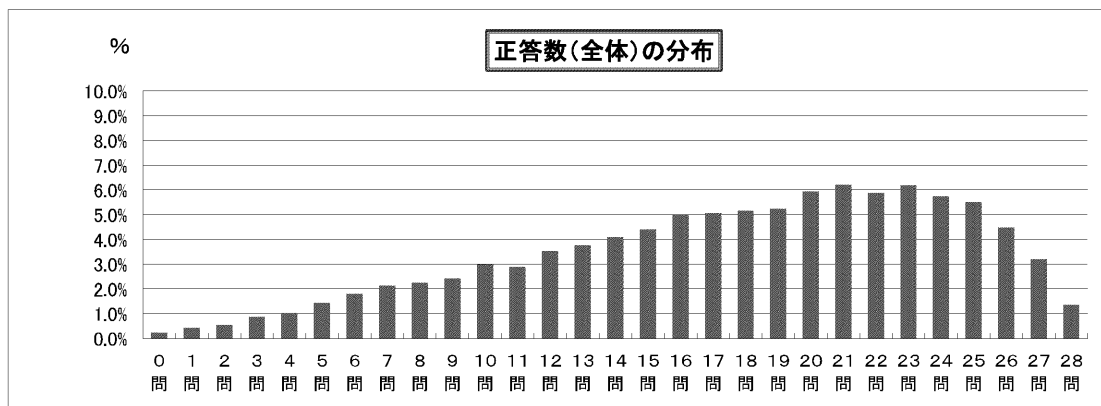
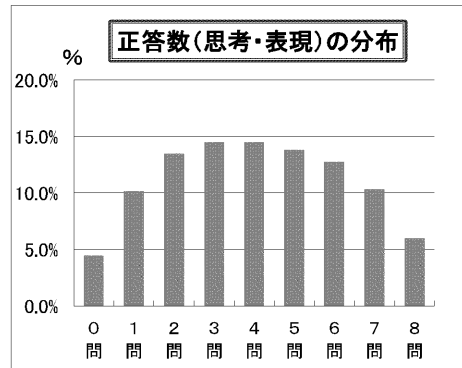
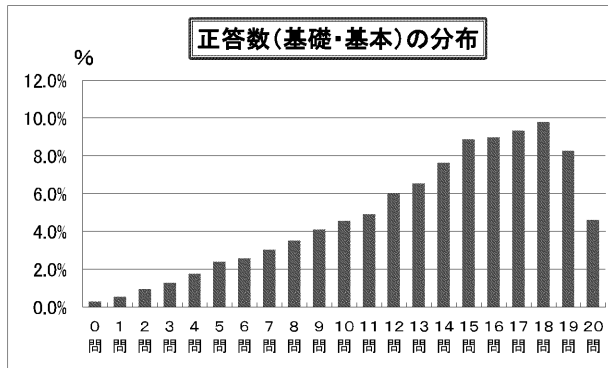
- 「基礎・基本」については、平均通過率は61.4%である。時差を求める問題については平成28年度と同程度の問題を出題したものの、H28の1(1)の平均通過率48.2%に対して、48.4%とほとんど改善が見られない。
- 「思考・表現」については、平均通過率は46.9%である。資料を読み取り説明する太閤検地や寛政の改革に関する問題は、無解答率が10%を超え、平均通過率も40%強と低くなっており、課題である。
- 知識・理解を深める授業では、地図、写真やグラフ等の資料を関連付けた活動を重視するとともに、自分の考えをまとめたり、グループで話し合ったりする活動を取り入れたい。



中学校第1学年【数学】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	72.6%	67.7%	66.8%
思考・表現	43.9%	50.6%	44.3%
全体	62.7%	62.8%	59.0%



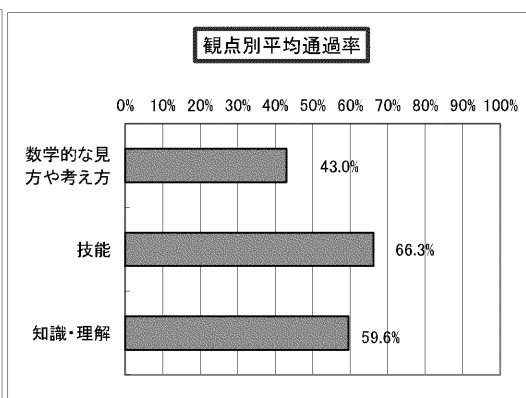
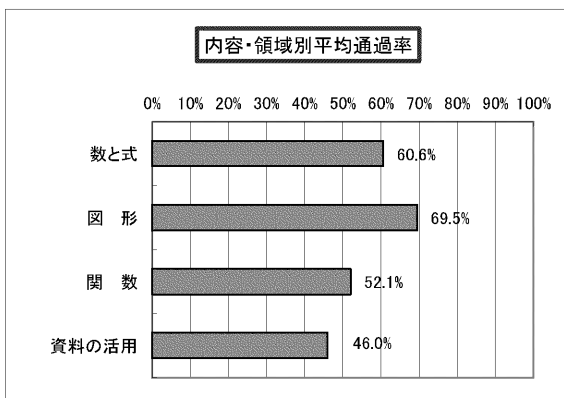
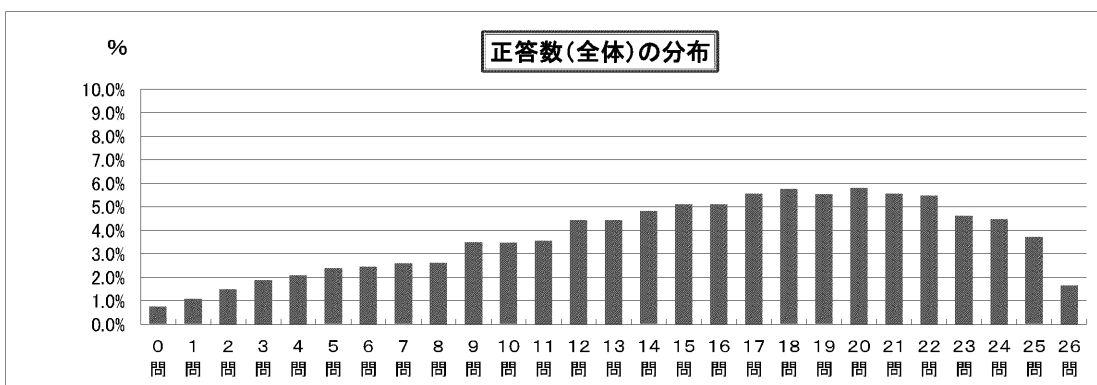
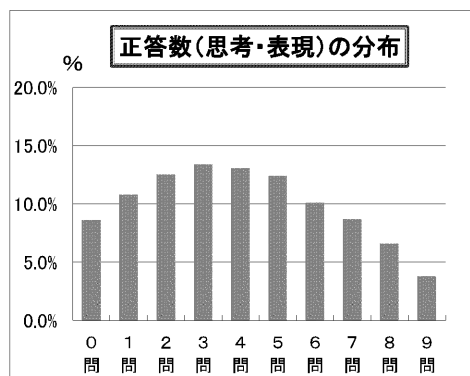
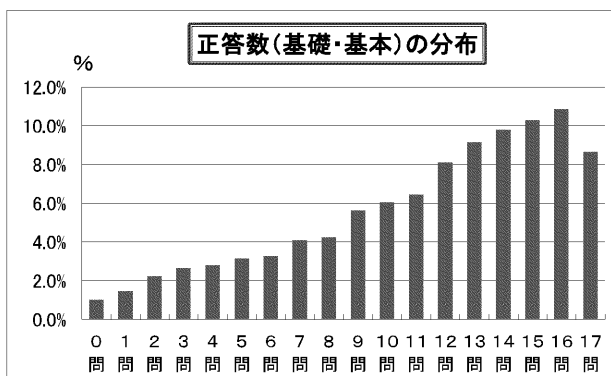
中学校第1学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は67.7%である。特に、比を活用して表を完成させたり、全体に対する割合を求めたりする問題については無解答率も高く課題がある。割合の関係については、具体的な数値や図、表を用いるなどして、機会を捉えて丁寧に繰り返し指導を行う必要がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率は50.6%である。式や数量について数学的な表現を用いて説明を記述する問題について課題がある。特に、文字を用いた式の説明を記述する問題、表の条件から数量関係を捉え、説明する問題については、通過率が低く、無解答率が高い。自分の考えを式や言葉を用いて数学的に表現することが課題である。
- 与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、解決させる活動や数、式、図、表等を用いて理由を説明、記述させる活動に取り組ませることが必要である。

中学校第2学年【数学】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	72.6%	67.7%	<b>66.8%</b>
思考・表現	43.9%	50.6%	<b>44.3%</b>
全体	62.7%	62.8%	<b>59.0%</b>



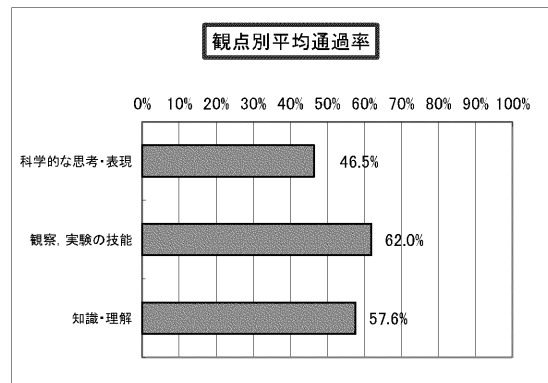
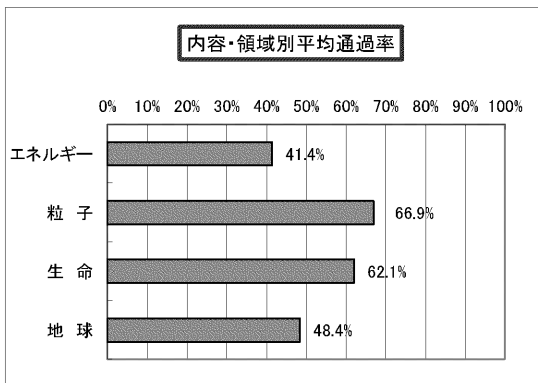
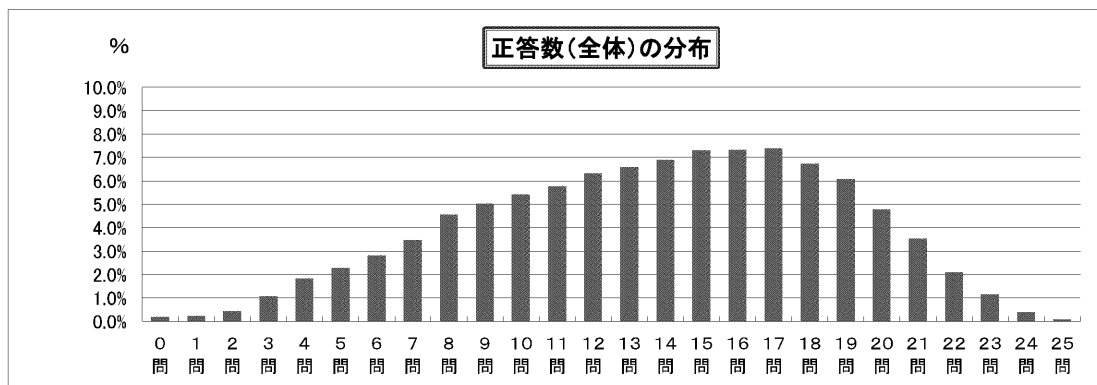
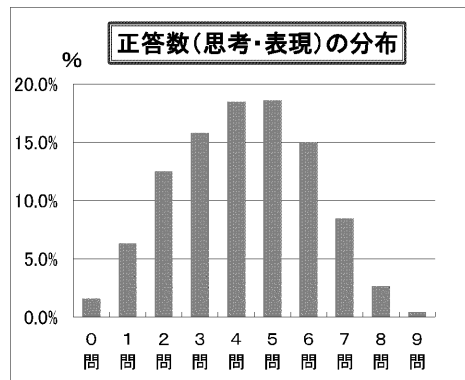
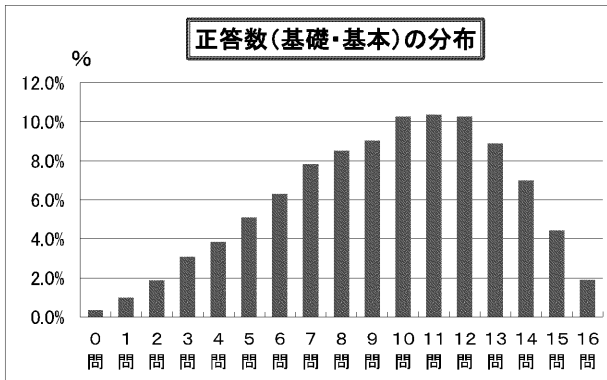
中学校第2学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は66.8%である。連立方程式の文字の意味、三角形の合同の判断、投影図について通過率が低い。また、等式の変形、反比例の関係の判断をする問題についても課題が継続している。
- 「思考・表現」については、平均通過率は44.3%である。特に、文字による説明や表から読み取れることを根拠に数値等を用いて説明する問題に課題がある。また、今回、全国学力・学習状況調査の度数折れ線の特徴を比較して説明する問題を参考に出題したが、24.3%の通過率であり、無解答率も37.7%である。
- 問題場面から必要な情報や資料等を適切に読み取り、言葉や表、グラフ、式等を用いて自分の考えを記述させたり、説明させたりする活動を繰り返し行うことが大切である。

中学校第1学年【理科】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	65.9%	59.7%	56.3%
思考・表現	73.4%	46.9%	28.5%
全体	68.8%	55.1%	46.3%



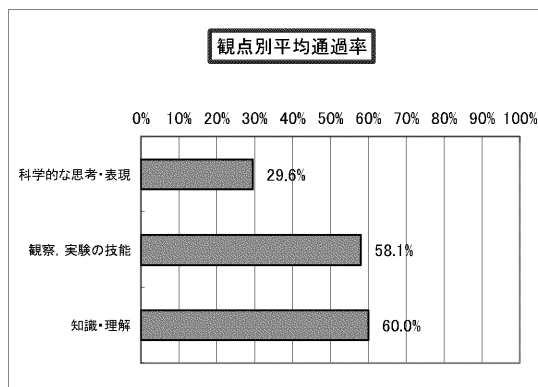
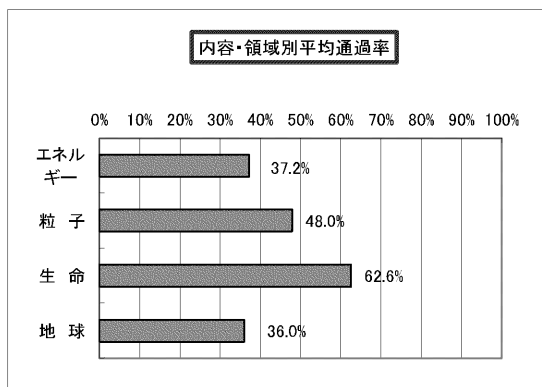
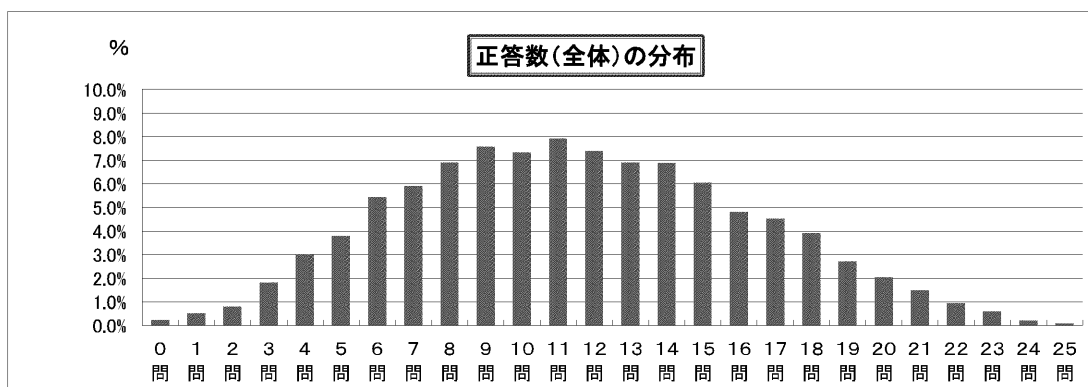
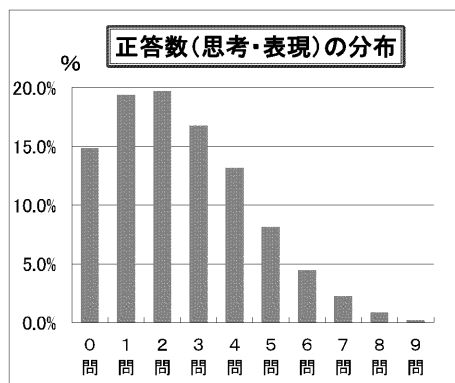
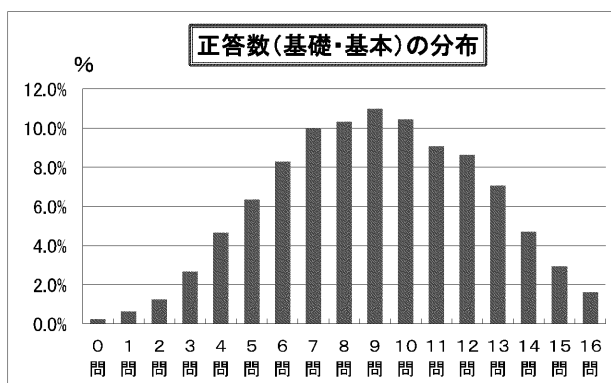
中学校第1学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は59.7%である。追跡調査である顕微鏡の使い方については改善が見られたが、裸子植物(マツ)のつくりについては、平均通過率は38.1%であり、依然として課題が継続している。また、空気中での音の伝わり方、半円球レンズにおける光の進み方、質量パーセントの求め方など、基礎的・基本的な事項についての理解がなされていない。
- 「思考・表現」については、平均通過率は46.9%である。今回、会話文から問題を読み取り、光の進む方向やできる像などを思考して判断する問題を、4ページにわたり出題した。光が平行にずれる理由の平均通過率は27.0%、レンズを半分隠したときにできる像の平均通過率は16.6%であり、凸レンズによる像のできるきまりを使って、自分なりに作図して思考し、表現することができていない。
- 光の反射・屈折、凸レンズの働き、音の性質については、身近な物理現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、結果を分析・解釈して生徒が規則性などを見出す活動を重視するとともに、簡単なカメラや楽器などを使って、原理や仕組みの理解を深めさせたい。

中学校第2学年【理科】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	65.9%	59.7%	<b>56.3%</b>
思考・表現	73.4%	46.9%	<b>28.5%</b>
全体	68.8%	55.1%	<b>46.3%</b>



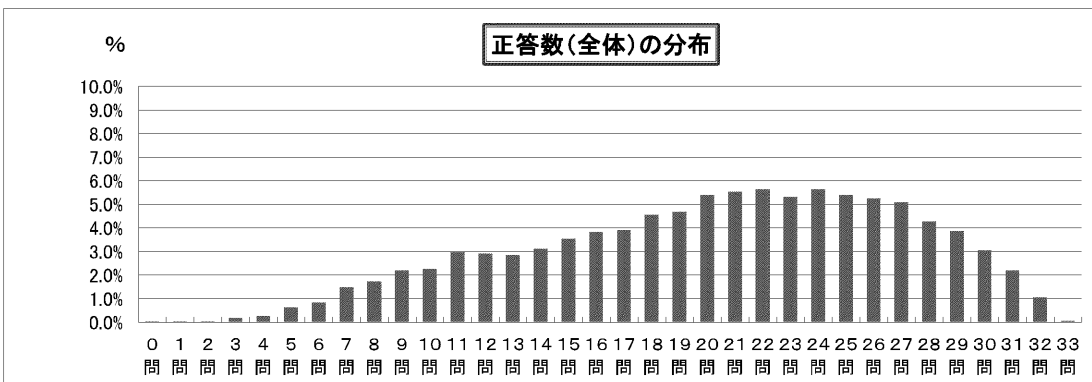
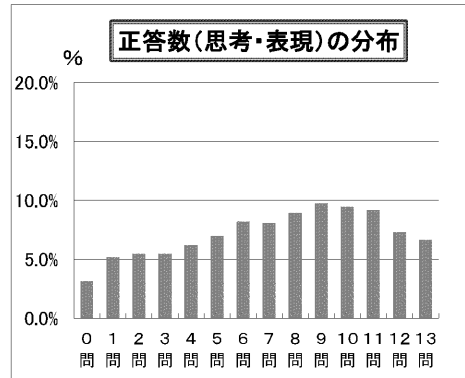
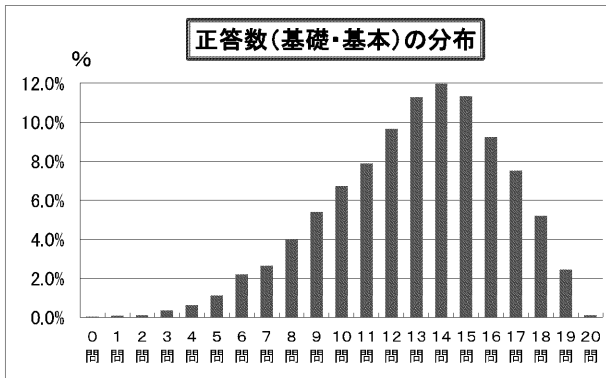
中学校第2学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は56.3%である。特に、物体がおよぼす重力や圧力を求める問題の平均通過率は12.9%であり、2学期に各学校が取り組んだ「学力向上に関する重点課題」と同一問題である水溶液の濃度を求める問題は、平均通過率は49.9%であった。基礎的・基本的な事項については、生徒が理解できるまで、繰り返し取り組ませる必要がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率は28.5%である。特に、発生した気体を分子モデルで表現する問題の平均通過率は30.5%であった。また、台風の勢力が衰える理由の平均通過率は9.3%（無解答率20.7%）であり、台風の進路の右側が風が強くなる理由を表現する問題の平均通過率は12.9%（無解答率29.9%）であった。正答数（思考・表現）の分布グラフから、正答数が2問以下の生徒が5割いることが分かる。Webシステムの評価問題を活用するなど、知識や技能を活用しながら思考し、文章や図で表現するような問題に取り組ませる必要がある。
- 粒子概念については、生徒が苦手にするため、状態変化をモデルで表現することの定着が図られていない場合は、十分に復習させてから、分子モデル、化学変化、そして、3年生のイオンと系統性に配慮した指導を行いたい。

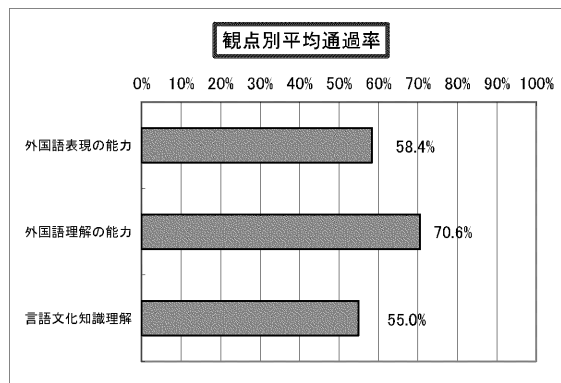
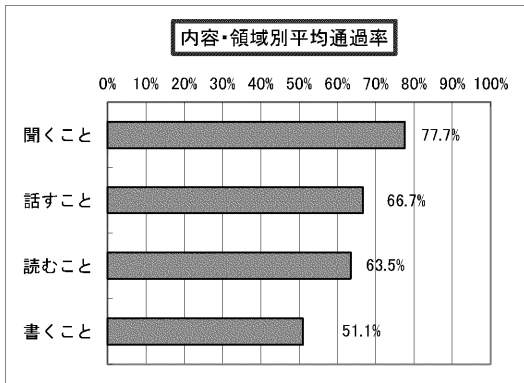
中学校第1学年【英語】

学年別平均通過率

	中1	中2
基礎・基本	68.4%	64.4%
思考・表現	55.9%	52.6%
全体	63.3%	59.8%



※正答数の分布については、全体の傾向として捉えること。(学校によって総問題数が異なるため)



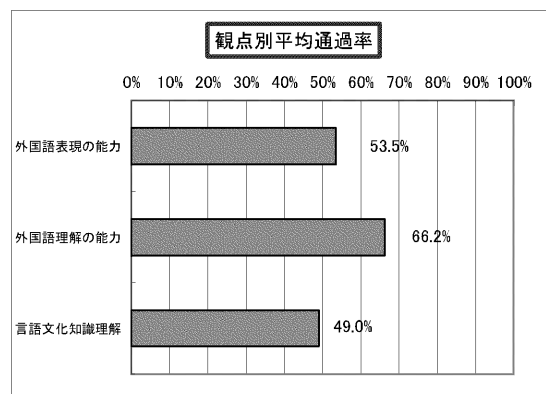
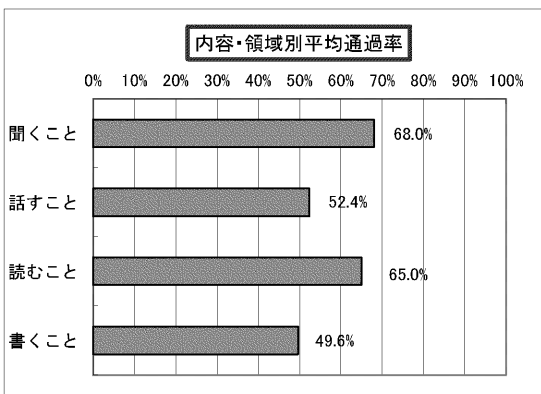
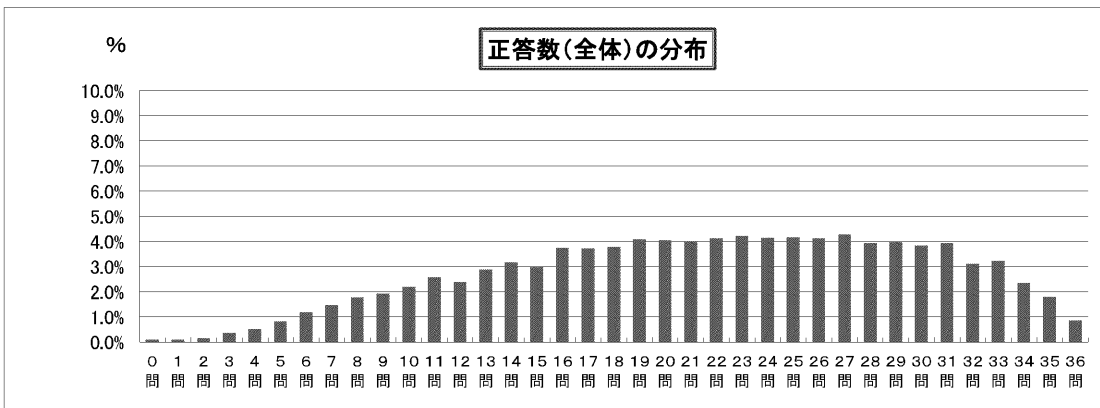
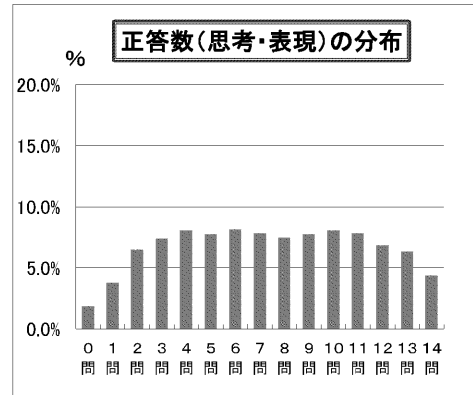
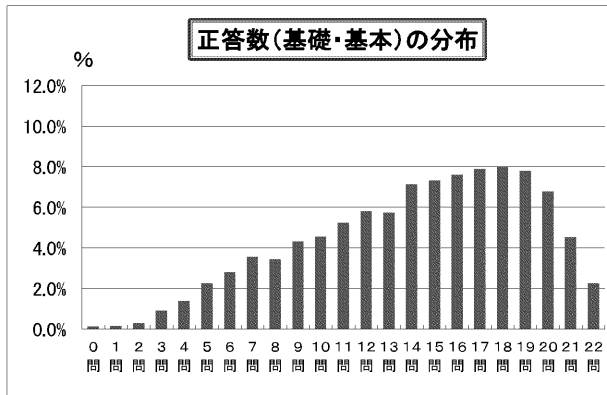
中学校第1学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は68.4%である。this の形容詞的用法 (This bike is nice.) の英文の語順を答える問題の平均通過率が20.3%、まとまりのある英文を読んで副詞 there の指す内容を適切に答える問題の平均通過率が32.6%で、語順整序や読解に課題が見られる。
- 「思考・表現」については、平均通過率は55.9%である。まとまりのある英文を読んで、登場する二人の人物の関係性を問う問いに対して they を用いて答える問題の平均通過率が43.9%であり、昨年度よりは高い数値となったものの、依然として課題が見られる。
- 授業における実際のコミュニケーションの場面の中で、学習した語や表現を実際に活用し、繰り返し話したり書いたりして使用させ、語順の大切さに気付かせながら着実な定着を図りたい。また、まとまりのある英文の読解については、しっかりと読ませる時間を設定した上で、指示語に着目したQ&Aを行ったり、読み取ったことを自分の知っている表現で説明させるなどの活動を積極的に取り入れたい。

中学校第2学年【英語】

学年別平均通過率

	中1	中2
基礎・基本	68.4%	64.4%
思考・表現	55.9%	52.6%
全体	63.3%	59.8%



中学校第2学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は64.4%である。1年時と同様に this の形容詞的用法 (This bag is new.) の英文の語順整序の問題の平均通過率が17.9%, 対話の文脈に沿って適切な動詞を正しい形で書く (want to study 等) 問題の平均通過率が31.8%であり、課題が見られる。
- 「思考・表現」については、平均通過率は52.6%である。昨年度から引き続き、長文を読んで前後の文から理由を捉えて日本語で説明する問題の通過率が29.0%と低く、メールのやりとりの流れを理解した上で文脈に沿った適切な英文を正確に書く問題が24.9%で課題が見られる。
- 書くことに関しては、個の習熟度に応じて辞書の使用を促したり誤りの修正を行ったりし、学習集団全体に共通する誤りについては、機会を捉えて説明し直し修正させるなどの手立てを通して、徐々に正確に書けるように指導したい。長文読解については、話の概要や展開等読み取れたことをペアで伝え合う活動や短い英文で書いてまとめるなど、様々な活動を組み合わせて取り組ませたい。